



国労仙台

No. 2566
2009年11月25日
発行責任者 橋本 昭二
編集責任者 武田 昌仙

三年連続の入賞!

第十四回 東日本マラソン大会

11月14日、国労東日本本部主催による、第14回マラソン大会が、皇居外周において開催された。当日は米オバマ大統領が皇居に表敬訪問し、スタート・ゴール地点が一部変更されるなど、物々しい厳戒態勢の下での大会であったが、仙台地本Aチームが見事三位入賞を果たした。

駅伝の部

優勝は千葉！
長野は連覇を逃す

駅伝の部の優勝争いは、最後まで気の抜けない展開になり、優勝間違いなしとの下馬評を得ていた王者長野は、最終第六区でトップの座を譲り渡した。優勝は「ダークホース」の千葉地本。桜田門を通過したアンカーが姿を現すと、意外な展開にゴール付近には、一瞬とよめきが起ったが、直ぐに拍手と歓声に包まれた。準優勝は「常勝」長野Aチーム。伏兵の出現に対応しきれずV5を逃した。第二位は仙台地本。昨年は準優勝、一昨年も三位とこの間安定した走りを見せ



一斉にスタートする第一走者

ている。来年こそは悲願の初優勝をもぎ取ってもらいたい。

実況レポート

磐石の布陣で臨むもアクシデントが襲つ

仙台チームの顔ぶれは、昨年の大会二位の実績をもつ最強の布陣。今年こそは悲願の初優勝を勝ち取るために、今日まで苦しい練習を重ねてきた。

だがその過酷ともいえる練習量がアクシデントを生んだ。全18チームがエントリーし、注目の第一区は高崎の斉藤が16分の快走で飛びぬけた。2位以下は団子状態で、佐々木晴基を第一走者に配置した仙台は第9位で襷を繋ぐ。各チームのエース級、しかも若手が配置される中で好位置を確保。襷を受け取った南幅清也が一気に順位を上げるべく、駆け出したそのわずか数メートル地点で、彼の右大腿部に激痛が走った。一週間前、最後の追い込みの練習時に起こした肉離れが再発したのだ。「やばい。棄権の文字が一瞬、脳裏をよぎった。だがそれは直ぐに消えてしまった。」



三位でフィニッシュ

1111101010
・ ・ ・ 282726
5 4
仙台支社殉職者慰霊法要
簡易苦情処理会議(佐々木氏)
地元選出国会議員要請行動
第一回執行委員会
東日本本部業務部長会議

1111111111
・ ・ ・ 6
141311 9
第14回東日本本部マラソン大会
団交(総台車セ業務改善究極め)
東日本本部委員長・書記長会議
団交(貨物冬期)
団交(冬期小生田・申32号)

「みんなこの一年間、一生懸命頑張ってきた。それを俺の脚の痛みで無駄にすることは出来ない」。南幅は、痛みに耐え続け、しかも順位を6位に引き上げる激走を見せ、三区の佐藤勝成に襷を手渡した。佐藤は派手さはないが、安定した走力には定評がある。粘りのある走りで見事に順位を5位に引き上げ、四区の大知里正へ。

アンカー勝負に持ち込むには非常に重要な位置付けである。気合は十分、昨年のような素晴らしい走りを見せたが、他チームも一歩も譲らず、一進一退の互角の勝負が続く。

6位でキャプテン、高橋真人に望みを託した。高橋はこの間、仙台チームを牽引してきた、文字通りの「大黒柱」。

穏やかな顔付きと柔らかな物腰とは裏腹に、一旦走り出せば「炎の男」と化する。精一杯頑張った！
仙台Bチーム



「たのむ〜」「まかせて！」

る。気合の走りで二人を抜き去り、最後は息子の高橋祐輝へ。だが彼も膝の靭帯を損傷しており、テーピング姿が痛々しい。レース前「無理するなよ。異変があったら直ぐ止めていいから」と声をかけたが、「はい。でも大丈夫です!」と、頼もしい返事。

やはり若者は素晴らしい。並居る強豪の中、しっかりと順位を上げ、3位でゴール。チームメンバーから祝福された爽やかな顔が、仙台地本の三年連続入賞を導いた。



ゴール前の力走



仙台地本からの参加者

山形県支部が大会 各支部大会の皮切り

国労山形県支部は11月7日、山形市大手門パルズにおいて第24回定期大会を開く。支部を代表し原田委員長は以下の挨拶を述べた。

原田委員長挨拶要旨

選挙闘争
民主党の圧勝で政権交代。山形県三区、吉泉秀男氏は比例で復活当選。新庄地区の組合員に感謝。4年後比例区での勝利を目指し今から準備を。

不採用事件

闘争団は、アルバイト収入の減少と生活援助金の減額等厳しい状況。年2回の音威子府の物販とアルバにも協力を。また全農林や社保の仲間は国鉄のようにヤミ・カラ攻撃や処分を理由とした解雇という二重の処分に不安な毎日。連帯し共に闘う。

退職のお知らせ

10月31日

畠山 幸久さん
仙総・台車分会
村松 孝一さん
仙宮運輸区分会
工ルダ

長い間お疲れ様でした

JRの安全輸送の確立

福知山線の事故調査委員会での情報漏洩問題は、JR西の組織的な関与。信濃川での不正取水問題では、社長・会社幹部が地元住民と真摯な対応をせず住民が反発、いまだ取水再開の目処が立たず。また現場では労働災害死亡事故などが依然として続き、昨年出された非常事態宣言は未解除。我々はJR利用者の命と財産、働く者の命と健康を守るため、職場からの安全輸送確立に向けた闘いを強化する。

組織の強化・拡大

国労の最重要課題。一括和解以降、国労への復帰・加入が続くも退職者が上回り組織は減少。支部は組対会議で、組合員一人一人が取り組む運動を提起してきた。現在の格差社会と労働運動後退の原因となった国鉄分割民営化と国労潰し攻撃。国労の組織と運動を継承発展させるために組合員の皆さんの奮起を要請する。

意見など

検修合理化が提案されているが、今後の取組みは。山形電車区では毎月何らかの傷害事故。支社は「少ない人員で大きな仕事をしている。誇りを持って」と訓示するが要員不足が明白。団結祭りに参加。2・16に向け参加体制を整えたい。

地域を越えた交流 交流野球大会を開催

東京・郡山・仙台

10月22～23日、東京・郡山・仙台の各野球チームが松島球場に集い、交流野球大会が開催されました。大会会場には東京から13名、郡山から7名、仙台からは19名の合計39名が参加。両日とも爽やかな秋晴れの下、皆さんが気持ちの良い汗を流し、また初日終了後、松島大松荘での懇親会では久しぶりに再開した

仲間同士が、大いに飲み、語り合いました。試合は強豪の東京チームに仙台チームが挑み惜敗したものの、郡山・仙台連合チームは一点を争う白熱した展開で、連合チームが一点差で逃げ切りました。
【仙台駅連合分会 129号より抜粋】



仙台の死亡事故は他人事ではない。新機種の訓練、未だに米沢の除雪車の訓練なし。保守用車の脱線復旧訓練も。トラムス、競合作業把握システムも教育なし。研修の機会を均等に。エルダール。駅は清掃、保線は一建と固定の考えでは、システムを超え様々な職種に行けるように。

55・57歳の賃金カットは廃止すべき。他労組と共闘できないか。出向先の労働条件。メンテ以降悪化の一途。夜勤回数、時間共に増加で大変。保守用車責任者へのポイント。監視労働・人権侵害では。遠距離通勤者が亡くなった。一人でも地元へ帰って欲しい。システム・制度変更に伴う教育の不充実。秋田支社では全員が研修を受けた保証もある。今年40・50歳代の労働者が倍と聞く。年齢に見合った業務をしているのか。

5月から延べ32回も直轄で除草。除草薬散布の遅れで苦情対応。踏切敷板はがれで列車が踏むなど設備の管理放棄。予算確保を。

宮城県支部大会

国労宮城県支部は11月8日、こくろう会館において第51回定期大会を開催し、支部を代表して秋山委員長は以下の挨拶を述べた。

秋山委員長挨拶要旨

JR不採用事件の早期解決に向けた闘い
3党連立政権が誕生した状況を生かし、これ以上の犠牲者を出す前に納得いく「雇用・年金・解決金」を求め、一日も早い解決が出来るよう奮闘する。

平和と民主主義を守る闘い
政権交代したが改憲の動きは止んでいない。地域の仲間と共に護憲の課題を取り組み、来年予定の参議院選での革新政党の躍進に向け全力で取り組む。

役員体制

- 執行委員長 秋山 正浩
- 執行副委員長 八巻 孝夫
- 書記長 山田 芳夫
- 執行委員 内田 五郎、木藤 昭弘、宮本 広美、佐藤 涼一、千葉 祐悦、村上 正博、加藤 幹男、三上 敦子、高橋 道雄、福原 育夫

新庄地区協が総会

11月13日、国労新庄地区協議会は、市内の同事務所において、第17回の定期総会を開催した。冒頭挨拶に立った若野議長は、地域共闘の強化と拡大、闘争団への支援強化、政治闘争の強化などについて述べ、理解と協力を求めた。総会は向こう一年間の活動方針を満場一致で採択、新役員を選出し、成功裏に終了した。

役員体制

- 議長 若野 伸一
- 副議長 能登井康夫
- 幹事 山口 恒好、早坂喜久雄
- 会計監査 山村 涉、石田 正幸、池田 直喜